

Ciscoビジネスシリーズスイッチでのループバック検出の有効化

目的

この記事では、Cisco Business 220、250、および350シリーズスイッチでループバック検出を有効にする方法について説明します。

概要

ループバック検出(LBD)は、ループ保護が有効になっているポートからループプロトコルパケットを送信することによって、ループを防止するスイッチの機能です。スイッチがループプロトコルパケットを送出し、同じパケットを受信すると、そのパケットを受信したポートをシャットダウンします。

LBDは、スパンニングツリープロトコル(STP)とは独立して動作します。ループが検出されると、ループを受信したポートはシャットダウン状態になります。トラップが送信され、イベントが記録されます。ネットワーク管理者は、LBDパケット間の時間間隔を設定する検出間隔を定義できます。

指定したポートでLBDをアクティブにするには、次の条件を設定する必要があります。

- LBDはグローバルに有効になっています。
- 特定のポートでLBDが有効になっている。
- ポートの動作ステータスはupです。
- ポートがSTP ForwardingまたはDisabled状態である。

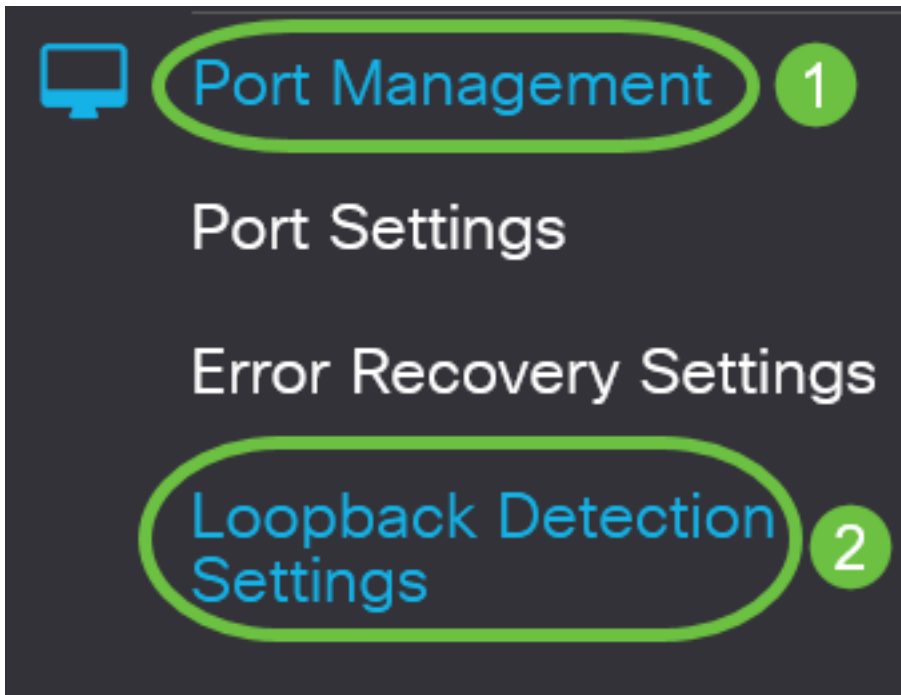
該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

- CBS220シリーズ ([データシート](#)) | 2.0.0.17
- CBS250 ([データシート](#)) | 3.1.0.57 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350 ([データシート](#)) | 3.1.0.57 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-2X([データシート](#)) | 3.1.0.57 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-4X([データシート](#)) | 3.1.0.57 ([最新版をダウンロード](#))

ループバック検出の有効化

手順 1

スイッチのWebベースのユーティリティにログインし、[Port Management] > [Loopback Detection Settings]を選択します。



CBS 250および350シリーズスイッチの場合、上部のドロップダウンメニューから[詳細設定]を選択します。

手順 2

[Loopback Detection]の[Enable]チェックボックスをオンにします。

Loopback Detection Settings

Loopback Detection: Enable

⚙️ Detection Interval: (Range: 1 - 60, Default: 30)

手順 3

[検出間隔]フィールドに値を入力します。これにより、LBDパケット間の時間間隔 (秒) が設定されます。

Loopback Detection Settings

Loopback Detection: Enable

⚙️ Detection Interval: (Range: 1 - 60, Default: 30)

この例では、30 が使用されます。

手順 4

[Apply] をクリックします。

Loopback Detection Settings Apply Cancel

Loopback Detection: Enable

⚙️ Detection Interval: (Range: 1 - 60, Default: 30)

手順 5

構成を永続的に保存するには、[構成のコピー/保存(Copy/Save Configuration)]ページに移動するか、ページの上にある[保存(Save)]アイコンをクリックします。



CBS220-8P-E-2G-CBS220-8P-E



admin(CBS22...)

Loopback Detection Settings

ポートでのループバック検出の有効化

手順 1

[Loopback Detection Port Setting Table]で、設定するポートのオプションボタンをクリックし、[Edit]をクリックします。

Loopback Detection Port Setting Table



Filter: *Interface Type* equals to

Port



Go

Loopback Detection State

	Entry No.	Port	Administrative	Operational
<input type="radio"/>	1	GE1	Disabled	Inactive
<input checked="" type="radio"/>	2	GE2	Disabled	Inactive
<input type="radio"/>	3	GE3	Disabled	Inactive

この例では、ポートGE2が選択されています。

手順 2

[Edit Loopback Detection Interface Settings]ウィンドウが表示されます。[インターフェース]ドロップダウン・リストから、指定したポートがステップ1で選択したポートであることを確認します。それ以外の場合は、ドロップダウン矢印をクリックし、正しいポートを選択します。

Edit Loopback Detection Interface Settings

Interface:

Port

GE2



LAG

LAG1



Loopback Detection State: Enable

手順 3

[Loopback Detection State]の[Enable]チェックボックスをオンにします。

Edit Loopback Detection Interface Settings

Interface:

Port

GE2

LAG

LAG1

Loopback Detection State: Enable

手順 4

[Apply] をクリックします。

Edit Loopback Detection Interface Settings

Interface:

Port

GE2

LAG

LAG1

Loopback Detection State: Enable

Apply

Close

手順 5

構成を永続的に保存するには、[構成のコピー/保存(Copy/Save Configuration)]ページに移動するか、ページの上にある[保存(Save)]アイコンをクリックします。



CBS220-8P-E-2G-CBS220-8P-E



admin(CBS22...)

Loopback Detection Settings

手順 6

[ポート管理] > [ループバック検出設定]ウィンドウに戻り、設定を確認します。[Loopback Detection Administrative State]と[Operational State]が[Enabled]に表示されます。

Loopback Detection Port Setting Table



Filter:

Interface Type

equals to

Port

Go

ステップ7

LBDを有効にするポートごとに、ステップ1 ~ 4を繰り返します。

結論

これで、Cisco Business 220、250、または350シリーズスイッチの特定のポートでLBDが正常に有効になりました。